

病害虫発生予察情報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稻	いもち病（穂いもち）	並	—	野菜	白ねぎのネギアザミウマ	並	—
	斑点米カメムシ類		—		白ねぎのネギハモグリバエ	やや少ない	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	少ない	—		白ねぎのシロイチモジヨトウ	並	—
	アカスジカスミカメ	やや少ない	—		ハスモンヨトウ	多い	—
	トゲシラホシカメムシ	やや少ない	—		ネキリムシ類	並	—
	クモヘリカメムシ	並	—		タバコガ類	少ない	—
	ツマグロヨコバイ	少ない	—	果樹	果樹のカメムシ類	少ない	—
	ヒメトビウンカ	やや少ない	—		リンゴの褐斑病	やや多い	—
	セジロウンカ	少ない	—		リンゴのナミハダニ類	並	—
	トビイロウンカ	並	遅い		リンゴのリンゴハダニ類	並～やや多い	—
コブノメイガ	並	—	ニホンナシの黒星病		やや多い	—	
紫斑病	やや多い	—	ニホンナシのナシヒメシンクイ		やや多い	—	
フタスジヒメハムシ	少ない	—	ニホンナシのハダニ類		やや多い	—	
アブラムシ類	少ない	—	ニホンナシのハマキムシ類		並	—	
ハスモンヨトウ	多い	—	ブドウのべと病		並～やや多い	—	
大豆カメムシ類	やや多い	—	カキ（三社）の炭疽病		並	—	
ハダニ類	並	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	やや少ない	—		
野菜	白ねぎのさび病	少ない	—	モモのせん孔細菌病	並	—	
	白ねぎの軟腐病	並	—	花き 球根	きくのハモグリバエ類	少ない	—
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	少ない	—		ハスモンヨトウ	多い	—
			タバコガ類		少ない	—	

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の発病株率は0%で、平年（0.02%）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
 - ・ 防除指針 30～31 ページ参照

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.02頭で平年（0.23頭）より少なく、確認地点率も2.2%で平年（6.2%）よりやや低かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 晩生品種については、防除終了後もカメムシ類の侵入が見られる場合は追加の防除を行う。
 - ・ 防除指針 40～42ページ参照

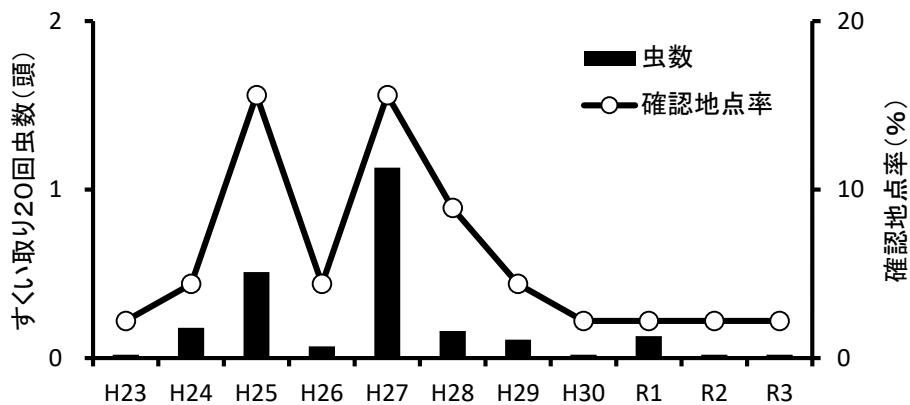


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.16頭で平年（0.21頭）よりやや少なく、確認地点率も4.4%で平年（7.8%）よりやや低かった。
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・ 防除指針 40～42ページ参照

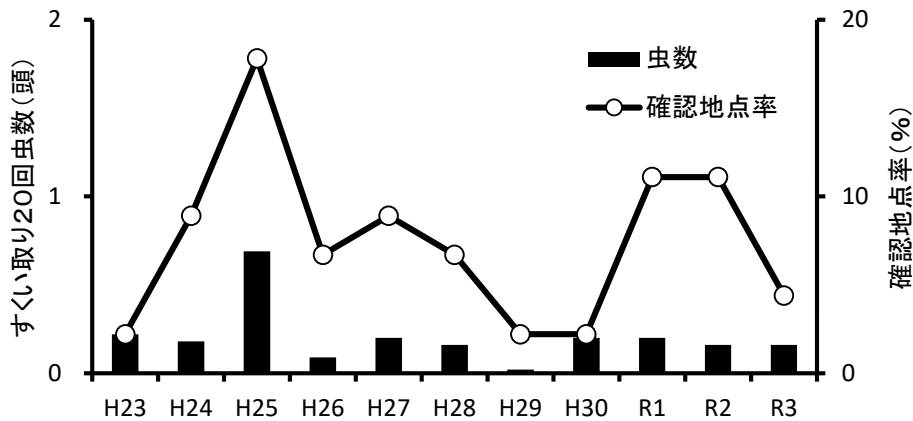


図2 アカスジカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

4 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
 (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.02頭で平年(0.07頭)よりやや少なく、確認地点率も2.2%で平年(5.3%)よりやや低かった。

- (3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 41~42ページ参照

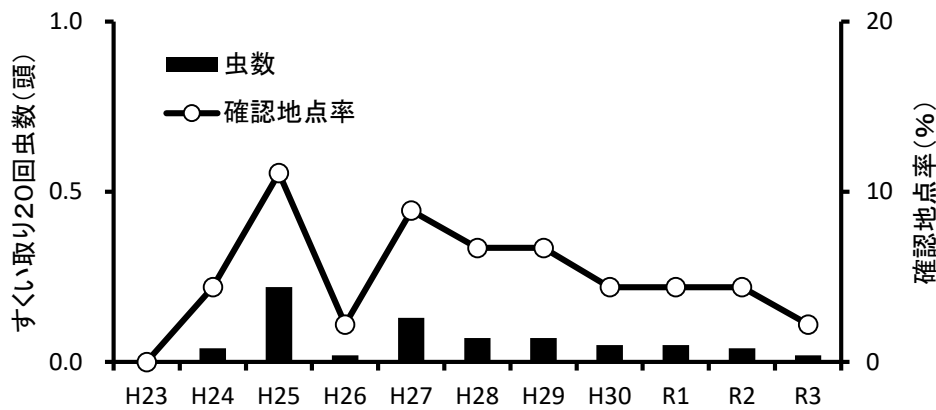


図3 トゲシラホシカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

5 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：並
 (2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.04頭で、平年(0.04頭)並、確認地点率も2.2%で平年(2.0%)並であった。

- (3) 防除対策

- ・ 発生がみられる地域では品種を問わず、穂揃期と傾穂期の2回防除を行う。

- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は追加防除を実施する。
- ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ、残効性の高い薬剤が有効である。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

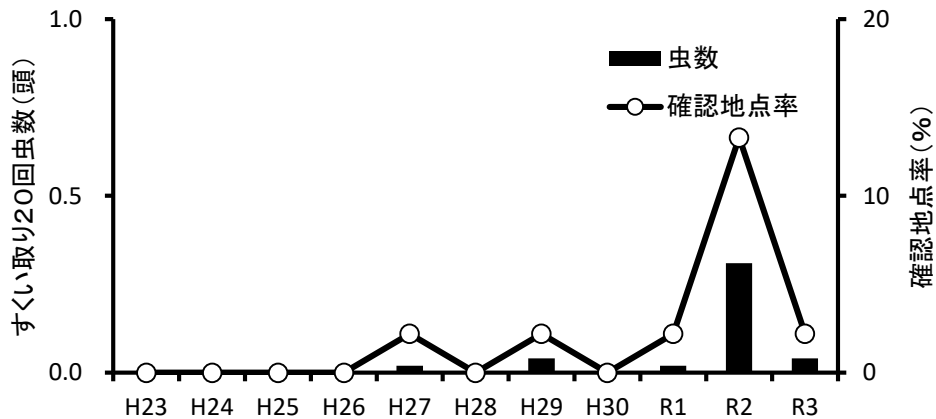


図4 クモヘリカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

6 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は4.8頭で平年(16.3頭)より少なく、確認地点率も22.2%で平年(28.9%)よりやや低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 37ページ参照

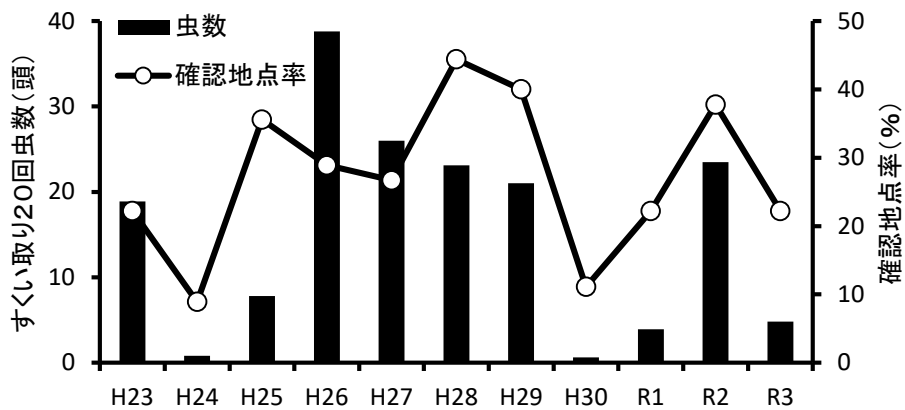


図5 ツマグロヨコバイの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

7 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は55.1頭で、平年(89.3頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 38～39ページ参照

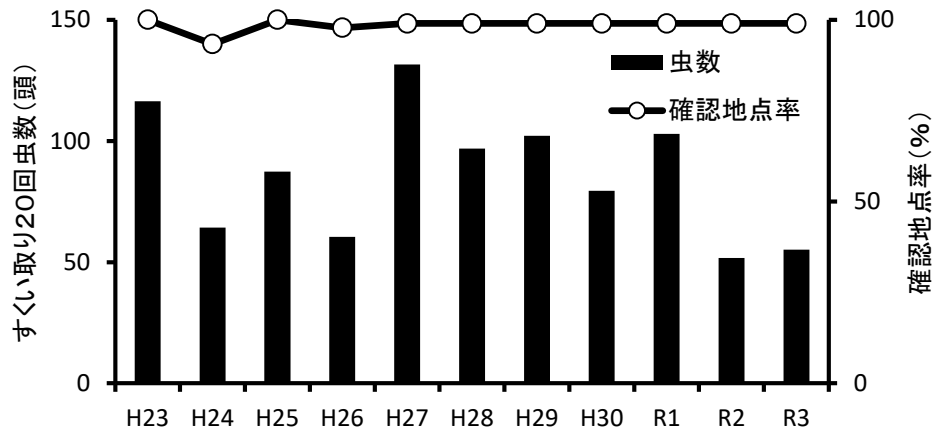


図6 ヒメトビウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

8 セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・8月20日調査の本田すくい取り虫数は本年0.3頭で、平年(3.2頭)より少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 38～39ページ参照

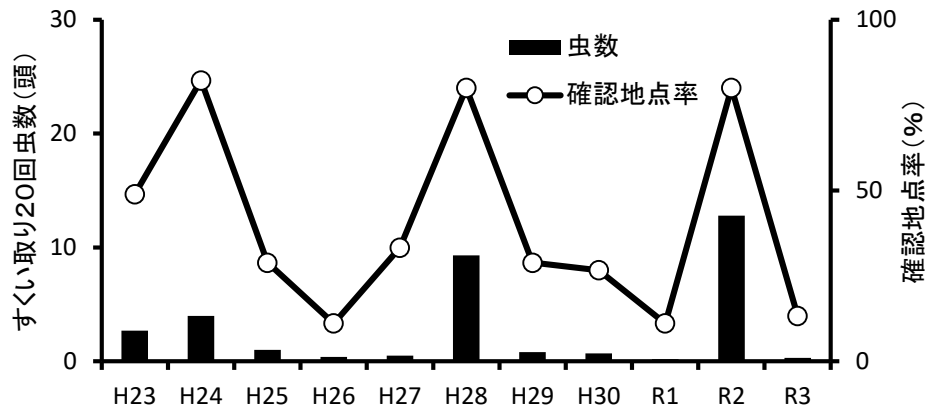


図7 セジロウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

9 トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量：並
発生時期：遅い

(2) 予報の根拠

【遅発要因】

・現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月9日)。

- (3) 防除対策
・防除指針 38～39ページ参照

10 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠
・8月20日調査の上位2葉被害葉率は0%で平年（0.0%）並であった。
(3) 防除対策
・晩植田で多発することが多いので注意する。
・防除指針 39ページ参照

II 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠
【多発要因】
・8月の降水量が多かった。
(3) 防除対策
・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
・刈遅れは発病を助長するので、刈遅れに注意し、収穫後はすみやかに乾燥する。
・防除指針 52 ページ参照

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠
【少発要因】
・8月25日調査の払落虫数は0.12頭で、平年（0.45頭）より少なかった。
(3) 防除対策
・払落調査を行ってほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
・防除指針 55 ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠
【少発要因】
・8月25日調査の寄生株率は0.4%で、平年（3.3%）より低かった。
(3) 防除対策
・防除指針 54 ページ参照

4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は313.2頭で、平年（194.2頭）より多かった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 55 ページ参照

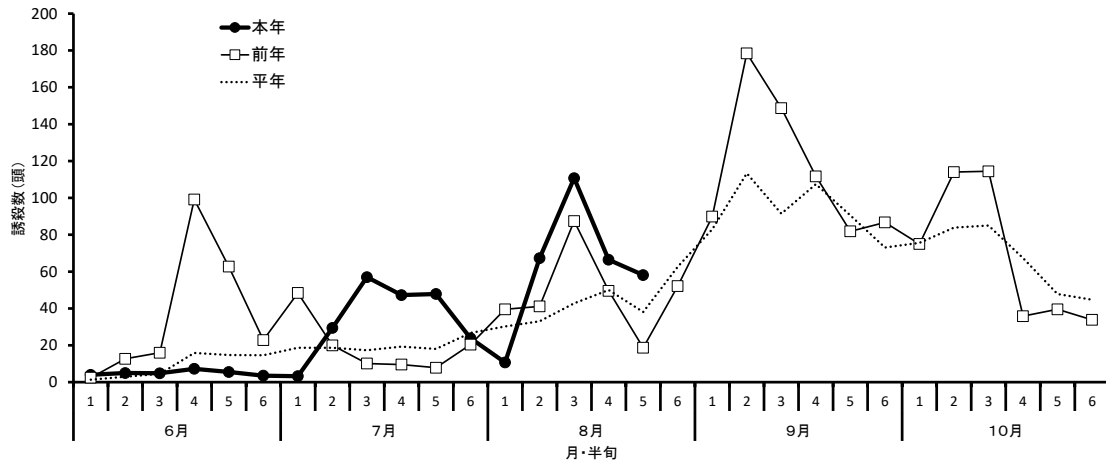


図8 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

5 大豆カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・8月25日調査の1条間1.8m払落虫数は0.12頭で、平年（0.07頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・多発が懸念されるほ場では、ほ場周辺部を中心に払落調査を行い、発生が見られ場合は追加の防除を行う。
- ・防除指針 54 ページ参照

6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：**並**
- (2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の被害株率は12.7%で、平年（18.5%）並であった。

- (3) 防除対策

- ・発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
- ・防除指針 53 ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 8月25日調査の発病株率は0%で、平年（0.5%）より低かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 97 ページ参照

2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ 9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。

・ 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。

・ 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。

・ 防除指針 98 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 8月25日調査の発病株率は2.4%で平年（10.4%）より低かった。

(3) 防除対策

・ さび病の防除に努める。

・ 防除指針 98 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ 8月25日調査の被害株率は40.8%と平年（54.4%）並であった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 99～100 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 8月25日調査の被害株率は8.0%と平年(20.5%)よりやや低かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 99 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は117.6頭で、平年(94.8頭)並であった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 100 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は313.2頭で、平年(194.2頭)より多かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 66～135 ページのハスモンヨトウの項参照

8 ネキリムシ類(タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は、タマナヤガが45.1頭で平年(30.1頭)よりやや多かったが、カブラヤガは50.8頭で平年(63.5頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・ ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
 ・ 定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
 ・ 防除指針 68～132 ページのネキリムシ類の項参照

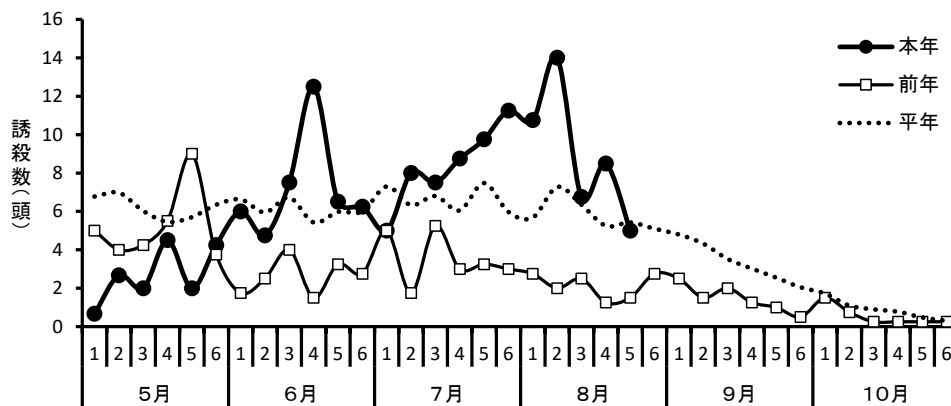


図9 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

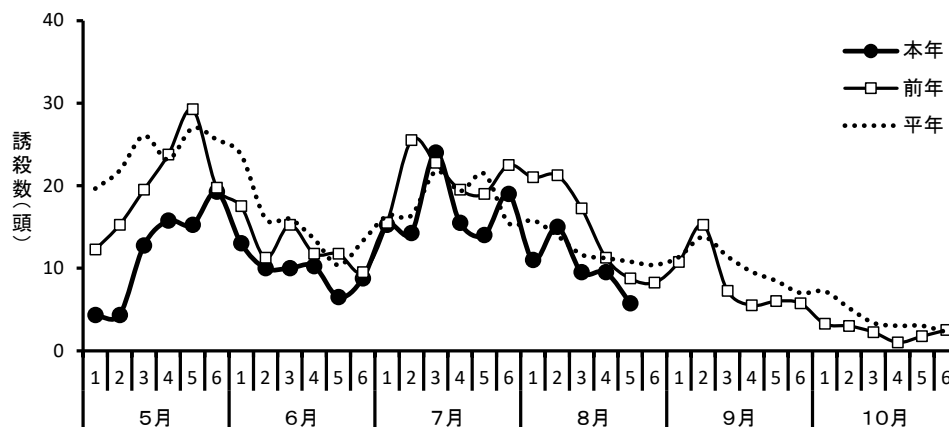


図10 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

9 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが19.0頭で平年(53.4頭)より少なく、オオタバコガも16.3頭で平年(61.0頭)より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 66～113ページの野菜のタバコガ類の項参照

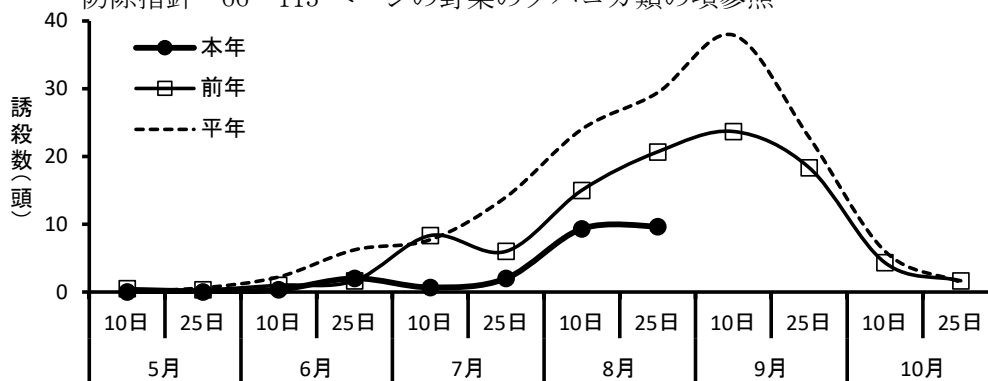


図11 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

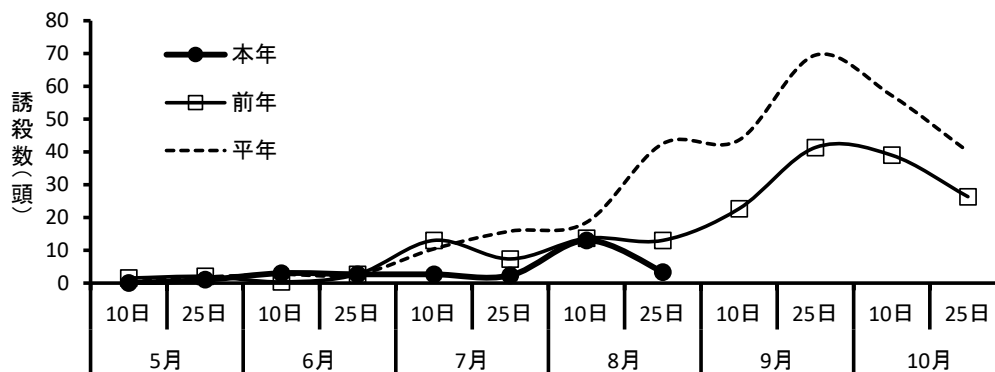


図12 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

・フェロモントラップによる7月4半旬～8月4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は、2.2頭で平年(9.7頭)より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、発生が見られる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等)を散布する。
なお、合成ピレスロイド剤は天敵に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針：リンゴ 144～145, 147～148 ページ、ニホンナシ 155, 158～159 ページ、カキ 169～170 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

・現在までの発生量は平年並だったが、8月中旬の降水量はかなり多かった(平年比277%)。

- (3) 防除対策

- ・薬剤の散布前には主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理し、薬剤到達性を向上させる。
- ・り病した葉や果実は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
- ・台風等風雨後や長雨が予想される場合は、QoI剤を散布する。
- ・降雨で防除間隔が開きすぎないように、適期防除に努める。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針：140～142, 146～147ページ参照

3 リンゴのナミハダニ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

・9月の気温は、ほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策

・殺ダニ剤の散布前には主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理し、薬剤到達性を向上させる。

- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：143, 145～146ページ参照

4 リンゴのリンゴハダニ

- (1) 予報内容 発生量：並～**やや多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は平年並だったが、一部産地では発生量が多い。

- (3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理し、薬剤到達性を向上させる。
- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：143, 145～146ページ参照

5 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・8月中旬の降水量はかなり多かった（平年比277%）
- ・発病果そう率が平年に比べやや高かった。

- (3) 防除対策

- ・り病した果実や葉は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い園地では、幸水の収穫後にオーソサイド水和剤80（1,000倍、収穫3日前まで）を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：151～154, 157ページ参照

6 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月4半旬の誘殺数は、17.5頭で平年（10.3頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
- ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤（2,000倍）を散布する。

- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：151, 154～155, 158～159ページ参照

7 ニホンナシのハダニ類（ナミハダニ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量がやや多い。

(3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理し、薬剤到達性を向上させる。
- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：156, 158～159ページ参照

8 ニホンナシのハマキムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月4半旬の誘殺数は、0.4頭で平年（0.5頭）並だった。

(3) 防除対策

- ・被害葉や被害果が見られる園地では、IGR剤を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：154～155, 158～159ページ参照

9 ブドウのべと病

(1) 予報内容 発生量：並～やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は平年並だったが、一部園地では発生量が多い。

(3) 防除対策

- ・り病した葉や果房などは見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・発生が確認される園地では、ICボルドー48Qまたはコサイド3000（クレフノン100倍加用）を散布する。
- ・防除指針：161, 164ページ参照

10 カキ（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は少なかったが、8月中旬の降水量はかなり多かった（平年比277%）。
- (3) 防除対策
 - ・り病した枝や果実は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
 - ・台風等風雨後はQoI剤又はナリアWDGを散布する。
 - ・防除指針：167～169ページ参照

11 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月4半旬の誘殺数は、153.0頭で平年（192.1頭）よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：167, 169～170ページ参照

12 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量はやや少なかったが、8月中旬の降水量はかなり多かった（平年比277%）。
- (3) 防除対策
 - ・防除効果を高めるため、散布前に秋季せん定を実施する。
 - ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、9月中旬～下旬にかけてICボルドー412（30倍）を2回散布する。
また、台風等強風が予想される場合は、強風前に速やかに散布する。
 - ・ボルドー液の予防効果の持続期間は15日程度なので、散布間隔が開きすぎないように注意する。
 - ・防除指針：172, 175ページ参照

V 花き・球根

1 きくのはもグリバエ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 8月25日調査の被害株率は0%と平年（0%）並に低かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 197～198 ページ参照

2 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は313.2頭で、平年（194.2頭）より多かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 199～206 ページのハスモンヨトウの項参照

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが19.0頭で平年（53.4頭）より少なく、オオタバコガも16.3頭で平年（61.0頭）より少なかった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 198～207 ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 3か月予報
(予報期間 9月から11月)

8月25日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

		09月~11月			
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	北陸地方	09月~11月	30	30	40
		09月	30	30	40
		10月	20	40	40
		11月	30	40	30
降水量	北陸地方	09月~11月	30	40	30
		09月	30	40	30
		10月	30	40	30
		11月	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)